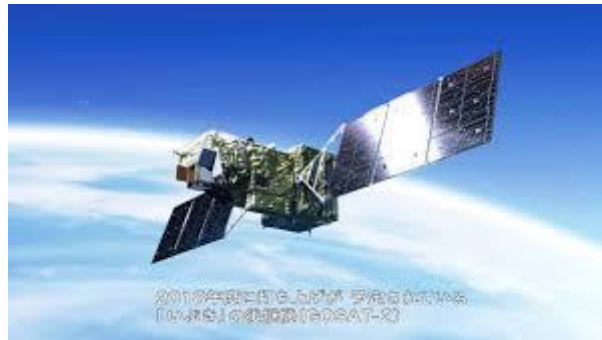
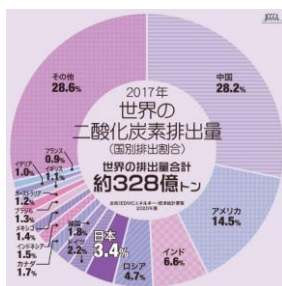


新型コロナとCO2急減

新型コロナウイルスの感染拡大によって人や経済の活動が抑えられるなか、地球温暖化につながる大気中の二酸化炭素（CO₂）濃度の増加ペースが急減したことが分かりました。地球全体の大気中のCO₂濃度は、特に冬から春にかけては微生物を含めた生物の活動が活発になることで例年、増加します。ところが、新型コロナウイルスの感染が広がった去年12月から今年3月にかけての増加ペースは、ここ数年の同じ時期に比べて半減したことが環境省などが運用する人工衛星の観測で明らかになりました。専門家によりますと、新型コロナウイルスの感染拡大によって人や経済の活動が低下したことで、CO₂の排出量が減ったことが要因の一つとして考えられるということです。【テレ朝news】<https://news.tv-asahi.co.jp>



日本の人口衛星いぶき2号

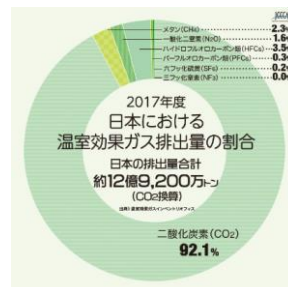


世界の減少量概算

328億トン/4/2=41億トン

冬場は排出量が多いので、上記以上の減少が推察できる。

2008,2009 時のリーマンショック時も大きく下がっている。



日本の減少量概算

12.9億トン/4/2=1.6億トン

大気中の温室効果ガス濃度は、近況で「410ppmを超えた」報道があるが、濃度が下がるわけではない。

以上